

2025 年 5 月 1 日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営[®]」コラム第 110 回

＜リーダーの気概＞

今年も既に 4 カ月が経過し、5 カ月目に入りました。多くの企業が事業計画の達成に向けて、あの手この手と組織行動力の強化を図っておられる事でしょう。

新入社員の多くは新鮮な緊張感を持ち、ベテラン社員も 4 月は 1 年の節目と捉えて新たな気持ちで仕事に臨んでおられる筈です。このような時、5 月は社内を一つの心にまとめ、活力を生み出す絶好のタイミングではないでしょうか。

組織行動力の創出ですが、企業・組織が掲げるビジョンを関係者が共通認識することが前提でしょう。そして雇用条件やインセンティブの納得感と共に、個々人が持つ自己実現の展望などを実感できる職場環境に影響を受けます。

人は仕事に働きがいを感じると自己の生命力を発揮し、行動力が向上しますが、組織を率いるリーダーの気概に最も大きく左右されます。このことは過去における多くの成功事例が物語っています。

＜第一次南極越冬隊長 西堀榮三郎＞

「人材を育てる方法はただ一つ。仕事をさせ、成功させることである。成功体験が人を育てる。さらに大きな仕事をさせる。人と仕事の美しい循環を成立させることである」

「チームワークの要件は、目的に対する共感、誇りと恥の意識である。過度の功名心・功名の独り占め意識は、チームワークの大敵である。抜け駆けの功名では、困難な仕事は達成できない」

「同じ性格の人たちが一致団結していても、せいぜいその力は『和』の形でしか増さない。だが、異なる性格の人たちが団結した場合には、それは『積』の形でその力が大きくなるはずだ」

「チャンスは逃すな。まず決断をせよ。石橋を叩くのはそれからである」

「個性は変えられない。能力は変えられる」

「人にとって最も恐ろしいのは、惰性で日を送ることである。向上心があれば、飽きることがない。仕事・生活のなかに、向上の道を残さねばならない。向上を求めねばならない」

「人間も含み、森羅万象みな大自然や。それを知るのが科学で、知りすぎることはない。そこで得た知識をどう使うかが技術で、技術者には人倫がなければあかん」

— 出典：「プロジェクト X リーダーたちの言葉」 今井彰著 —